

忘れられない九日間

下吉田中学校

小野 李里花

私は昨年の夏休みにホームステイをした経験があります。しかし、その時はほとんど英語が話せず後悔したのでこの姉妹都市派遣事業に参加できる事が決まった時から悔いのないよう積極的に行動しようと決めていました。

8月1日、アメリカに到着しバスの中から外を見ると日本にはないほどの広い草原、大きな空が広がっていて、九日間私はここで暮らすのかと思うと胸がワクワクしました。

コロラドで過ごした九日間は私にとって想像以上に大きな経験になりました。

たくさんの経験をした中で、私が一番印象に残ったのはホームステイです。ホストファミリーに会うまでは、英語をしっかりと話せるか、どんな人なのかとても緊張しましたが、ウェルカムパーティーで大きく自分の名前が書いてあるボードを見つけ、笑顔で温かく迎えてくれているホストファミリーを見て心が温まりました。

私のホストファミリーはアメリカ人の父、アメリカ人と日本人のハーフの母、それに13歳の中国人の娘の三人家族でした。丘の上に家があり野生の生き物を身近に感じられる別荘のようなステキな家でした。

一日目はホストシスターと一緒に映画を観て、ボードゲームをしてスーパーに買い物に行きました。アメリカでは「魔女の宅急便」が「KIKI'S」と呼ばれているという小さな発見がありました。

そして二日目の朝私にとって大きな発見がありました。この家ではホストシスターが早起して両親の分まで朝食を作っていたことです。私よりも年下なのに何でもできて、家事まで手伝っているホストシスターをととても尊敬しました。私も一緒に朝ごはんを作ってとても楽しかったですが、私の家では朝起きたら母の作った朝ごはんがあるのが普通だったのでとても驚きました。そして普段親にしてもらっていることが「当たり前」ではないことに気付かされました。朝食のあと動物園に行きました。キリンに餌をあげたり、回転がとても速いメリーゴーランドに乗ったりすごく楽しかったです。

三日目には病院にいる日本人のおばあちゃんのところへホストマザーと行きました。ホームステイ前のメールのやり取りでおばあちゃんはパーキンソン病でずっと入院していると聞いていたので、会えたら日本の懐かしい歌を聞かせたいと思い、練習した「瀬戸の花嫁」を歌ってあげたら笑顔で拍手をしてくれました。ホストシスターのピアノに合わせて「おぼろ月夜」を歌い、ホストファミリーと一緒に日本を感じることができました。

ホストファミリーはどこに行っても私のことを紹介してくれたので沢山の人が私に話しかけてきてくれてとても嬉しかったです。初めて行った場所で、初めて会った人でも明るく笑顔でフレンドリーに接してくれるアメリカ人はとても素敵だなと感じました。

30周年記念パーティーではソーラン節と富士山の合唱を披露し、みんなで一ヶ月前から

練習してきて良かったなと思える発表ができました。コロラドでもソーラン節を踊っている人がいて「すごく上手だったわ」と声をかけてもらいとても嬉しかったです。

ホストファミリーとの六日間はあっという間でした。姉妹のように毎日一緒に過ごしたホストシスターとの別れは特につらかったです。別れ際にホストファザーが「次はもっと長く泊まりに来ていいよ。」と言ってくれました。ホストシスターからもらったペアのネックレスは私の宝物です。

七日、八日目は派遣団のみんなと「ロイヤル・ゴージ・ブリッジ」など色々な場所に行きました。「ロイヤル・ゴージ・ブリッジ」ではゴンドラに乗って高いところから崖の美しさを堪能することができました。今度コロラドに行ったときはジップラインに挑戦したいです。

コロラドでの九日間は私を大きく成長させてくれるものでした。アメリカの良いところを知り、日本の良いところも改めて感じられた旅になりました。こんなに素敵な旅ができたのも市役所の方々や学校の先生、家族、そして一緒に参加した仲間のおかげです。派遣団のみんなとプールに入ってたくさん遊んだり、たくさん話をしたことも一生忘れません。この事業を通してとても良い仲間を手に入れることができました。

私は、もっと海外のことを知りたいし、もっと英語を話せるようになりたいです。この経験を生かしこれからも積極的に学び、将来富士吉田市とコロラドの交流に貢献できるよう頑張っていきたいと思います。